

分析哲学における時間論

小山 虎 (大阪大学)

本発表の目的は、本ワークショップの準備として、他の提題者の議論を結びつけるための枠組みを提供することである。具体的には、分析哲学（主に分析形而上学）において論じられている時間論のトピックを概観し、基本的な概念や論争を紹介する。分析哲学において論じられている時間論関係のトピックを網羅的に紹介するのではなく、あくまで本ワークショップに必要な範囲にとどめるが、分析哲学における時間論の全体像のイメージを掴むには有益なものになっているはずである。本発表により、他の提題者がどの立場に関して論じているか（または論じていないか）、あるいは分析哲学であまり扱われてないトピックについて論じているかが把握しやすくなることを期待する。

紹介を予定しているトピックは下記の通り：

- A理論とB理論
- 時制
- 時間の流れ
- タイムトラベル
- 存在論：現在主義・永久主義・成長ブロック宇宙説
- 持続：三次元主義と四次元主義
- 時空論：実体説と関係説

加えて、紹介する様々な理論対立（たとえばA理論とB理論の対立や三次元主義と四次元主義の対立）がどのような関係にあるかの（一定の）見通しを与える。

下記については、多少言及はするが、詳しい紹介は与えない予定である：

- 開かれた未来（宿命論）
- 時制論理などの時間に関する論理
- 因果
- 時間認知（時間の知覚）
- 物理学に基づく様々な議論

本発表では、他の提題者による発表とは異なり、物理学における時間と上記の各トピックの関係について具体的に論じることはしないが、他の提題者による議論を通じて間接的に示されるはずである。